

文部科学省

「地域社会に根ざした高等学校の

学校間連携・協働ネットワーク構築事業

(COREハイスクール・ネットワーク構想)」

令和5年度 成果報告書

令和6年3月

大分県教育委員会

1. 事業概要

1.1. 本事業に取り組む課題と目的

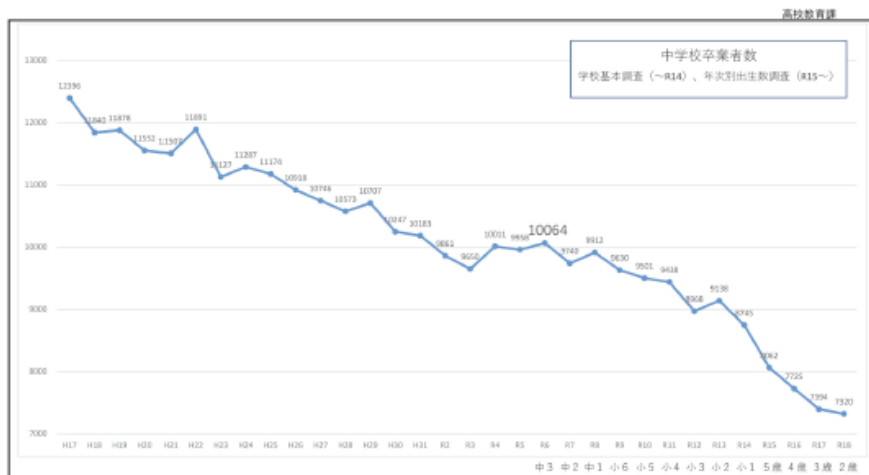
【高等学校を取り巻く状況】

- 本県では、H17年度からの高校再編で、県立高校を53校から40校に削減し、学校の適正規模化を図るとともに、学習の機会確保の観点から、中山間地域を中心に複数学科を一枚に統合した総合選択制高校を設置するなど、生徒の学ぶ環境を整備してきた。
- その後、さらなる少子化の影響により、高校の学級数を削減せざるを得ない中、結果的に地域の小規模校には、地域全域から幅広い学力層の生徒が入学し、同じ教室内で、かつ同じペースで学習に取り組む状況が生じている。
- 本構想の核（コア）として設定した中津南高等学校耶馬溪校（以下、耶馬溪校）は、本県唯一の分校であり、中山間地域にある小規模の学校である。学校が所在する中津市は、市街と中山間地域の人口比84：16、特に0～19歳の人口比は89：11であり、高校卒業時までの児童生徒数は、圧倒的に市街地に集中している。加えて、中山間地域に住む中学生のうち、一定数が都市部の大規模な高校に進学しており、都市部以外の多くの地域の高校において、さらに入学者が減り小規模校化が進むという循環を生んでいる。
- 一方で、中山間地域の高校では、大自然や伝統文化などの恵まれた地域資源を強みとして、平成28年度から高校の魅力化を進めているところであり、総合的な探究の時間等において、地元根ざした教育活動を実践している。また、小規模校ならではの生徒に寄り添う丁寧な学習指導により、在校生の満足度は高いものの、より高度な知識や広範な学習を含んだ、個々に応じた最適なレベルの授業を望む声も生徒から聞かれるなど、限られた教員数で対応することの難しさがある。

大分県立高等学校配置図（R5年度）



県内中学校卒業生数の推移



【取組の必要性】

- 受信校として、耶馬溪校の他3校（久住高原農業高校、国東高校、佐伯豊南高校）を挙げたが、いずれも、少子高齢化が進む中山間地域に立地する学校であり、学科規模の縮小や小規模校化が進む中で、生徒・教員数ともに確保が難しい状況である。
- 地域の活力創出にもつながる中山間地域の学校をいかに維持し、地域の核としての役割を果たしていくかという観点で考えると、これまで以上に、地元の中学生在が行きたい、学びたいと思う魅力ある学校づくりを進め、入学者を確保していく必要があり、小規模校としてのデメリットをいかに解消していくかが課題となる。
- 入学者の増加、地域を担う人材の育成、結果として地域の活力の創出という好循環を生み出すためにも、中学生在が地元の高校に進学しても、安心して個々の進路実現に向かって邁進できるような学校の体制づくりが必要である。例えば、大学進学も視野に入れた学力向上や、専門的なスキルアップを図る授業において、多様な生徒の習熟度や進路ニーズに対応する、よりきめ細かい学習指導体制を整えることで、中山間地域における魅力ある学校づくりを後押しし、生徒が地域の高校に通う意義や価値を新たに生み出すことにつながると考える。
- 中学校卒業予定者数の減少が再び見込まれる2025年度までに、中山間地域における高校の魅力を高めることは、県内の高校生の学びの場として、県立高校の学校数の減少を食い止めることにつながるため、遠隔教育の充実喫緊の課題と考えている。

【取組の目的】

- 本ネットワーク構想の目的として以下3点を挙げる。
 - ①中山間地域の小規模校で、生徒の多様なニーズに応える学習指導体制の構築
 - ・都市部の進学校から、英語・数学等の習熟度別授業を配信（単位として認定）
 - ・進学意欲の高い生徒に、ワンランク上の授業を提供し学力向上の核となる層を形成
 - ・受信側に専門外職員を配置し小規模校の人的デメリット解消に向けた取組を実践
 - ②中山間地域の高校生の専門的なスキル向上を図る、先端技術等に係る授業の提供
 - ・専門学科のスキル向上につながる授業を他校に配信
 - ・産学連携による最新のSTEAM教育実践校から地方創生にもつながる授業を配信
 - ・地域の高校にしながら最新の知識・技能を習得し、関連の資格取得者数が増加
 - ③地域協働による地域人材の育成や、生徒が切磋琢磨できる環境づくりの促進
 - ・連携校5校ごとに、地元自治体や企業等と高校が連携するコンソーシアムを構築
 - ・地域での探究的学習を進め、連携校間で意見交換等することで生徒の視野を拡大
 - ・本取組の成果を連携校以外の高校にも還流し、県全体の遠隔授業への理解を促進

【育成を目指す資質・能力】

- 異なる価値観をもつ多くの人々と協働し、得た情報を整理しながら自分の意見を述べる力
 - ・小規模校で、限定的な人間関係を築いてきた生活環境に変化を与え、自分と異なる価値観や考え方をもった、他校の生徒や地域住民との交流を通して得た情報を活かし、自分の考えを組み立て、それを分かり易く伝える力や状況に応じた対応力を育てる。
- 課題解決に向け、仮説をたて、調査、実践、検証から改善へつなげる探究的な力
 - ・地域をどう活性化すればよいか、地域が抱える課題や、強みとなる地域資源をもとに、地域の全体像や将来像をイメージして、より良いものを創造していこうとするデザイン思考や創意工夫の精神を育てる。
- ワンランク上の学習内容に挑戦し、学び続けようとする意志、意欲
 - ・小規模校の生徒にとって、ワンランク上の習熟度別授業を受講することで、英語・数学等において、これ

までの授業では体験し得なかった、難易度の高い問題や課題に挑戦する力や、意欲をもって学び続けようとする姿勢を育てる。

○地域人材の育成や地域の活力増進につながる、地域への理解や愛着、責任感

- ・地域資源など地元の強みや、地域が解決すべき課題を知る機会や、他地域との比較の場などを設定することで、生まれ育った故郷のことを自分のこととして主体的に考え、将来的に地域振興を支えていこうとする人材としての資質を育てる。

1.2. 本事業を通して明らかにしたい事項

【遠隔授業】

本事業に取り組むにあたり、初年度は遠隔授業についての試行配信を行い、遠隔授業の実施方法を1授業1校への配信と決定した。試行配信では、機器操作を含めたイメージの共有することで、次年度以降の課題として、①生徒の理解度の見取り、評価手法について ②授業支援アプリ(MetaMojiClassRoom等)の有効活用の研究 ③受信校での授業補助について ④配信校・受信校間の校時のずれについて ⑤複数の受信校への同時配信の研究と設定し、取り組むこととした。

本格実施に取り組むために、④配信校・受信校の校時のずれについては、受信校の校時を基準とした形で、配信担当教員の授業時間の調整を行うこととした。

令和4年度からは、①生徒の理解度の見取り、評価手法について ②授業支援アプリ(MetaMojiClassRoom等)の有効活用の研究 ③受信校での授業補助について、授業視察とともに配信担当教員とのヒアリングを行うことで、方向性を定めていき、遠隔授業の回数を重ねるごとに、方向性を共有し、改善に取り組んだ。

また大分県教育委員会として、①生徒の理解度の見取り、評価手法について ②授業支援アプリ(MetaMojiClassRoom等)の有効活用の研究 ③受信校での授業補助についてなどの項目に加え、④配信校・受信校間の校時のずれについて ⑤複数の受信校への同時配信の研究について、本事業に取り組んでいる他県の視察に行き、研究を同時で進めてきた。

令和6年度からは、本事業で研究を進めてきたことを活かし、学校間連携方式を継続しつつ、令和7年度から配信センター方式に取り組むための準備を進めていくこととした。

【コンソーシアム】

本県においては、令和3年度から県予算事業(地域との協働による高校魅力化推進事業)を活用し、受信校ごとにコンソーシアムを立ち上げ、地域資源や地域人材を、探究的な学びの教材として活用するとともに、育成したい資質・能力の共有と、協働して地域の生徒を育てる仕組みづくりを進めてきた。

令和6年度からは、さらに地域との連携を進めるとともに、情報発信の充実に取り組むこととした。

1.3. ロードマップ

【遠隔授業】

年 度	内 容	備 考
令和3年度	試行配信 ○配信・受信環境の構築 ○授業デザインの構築	
令和4年度	本格配信 ○遠隔授業実施上の課題・成果の確認と共有 ○遠隔授業の持続可能性の研究	【配信校】 中津南、大分南、情報科学 【受信校】 耶馬溪校、久住高原農業、佐伯豊南、国東
令和5年度	本格配信 ○遠隔授業実施上の課題・成果の確認と共有 ○遠隔授業の持続可能性の研究	【配信校】 中津南、大分南、国東、情報科学 【受信校】 耶馬溪校、久住高原農業、佐伯豊南、三重総合、国東
令和6年度以降	遠隔授業の持続・拡大 ○学校間連携による本格配信 ○遠隔授業の拡大を目的に、配信センターの整備を進め、令和7年度から学校間連携方式に加え、配信センター方式の推進	

【コンソーシアム】

年 度	内 容	備 考
令和3年度	○地域との協働による高校の魅力化推進事業によるコンソーシアムの構築	【学校運営協議会】 久住高原農業
令和4年度	○コンソーシアムを活用することにより、学校外の教育資源を活用した探究的な学びなどによる教育の高度化・多様化に関する取組の推進	【学校運営協議会】 久住高原農業
令和5年度	○コンソーシアムを活用することにより、学校外の教育資源を活用した探究的な学びなどによる教育の高度化・多様化に関する取組の推進	【学校運営協議会】 耶馬溪校、国東、久住高原農業
令和6年度以降	○学校外の教育資源を活用した探究的な学びなどによる教育の高度化・多様化に関する取組の推進 ○学校間連携により、情報交換・意見交換を進め、地域密着	

2. 遠隔授業の実施やその運営体制に関する取組

2.1. 調査計画

月	実施内容
令和5年 4月	<ul style="list-style-type: none"> ○配信担当者と受信校教科担当と協議 ○遠隔授業実施に向けた進捗表作成 ○遠隔授業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・中津南 ⇒ 耶馬溪校、久住高原農業 ・情報科学 ⇒ 耶馬溪校、国東 ・大分南 ⇒ 耶馬溪校、佐伯豊南
5月	<ul style="list-style-type: none"> ○配信教員と受信側教科担当との協議 ○遠隔授業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・中津南 ⇒ 耶馬溪校、久住高原農業 ・情報科学 ⇒ 耶馬溪校、国東 ・大分南 ⇒ 耶馬溪校、佐伯豊南 ○C I O・管理機関の学校訪問・視察
6月	<ul style="list-style-type: none"> ○配信教員と受信側教科担当との協議 ○遠隔授業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・中津南 ⇒ 耶馬溪校、久住高原農業 ・情報科学 ⇒ 耶馬溪校、国東 ・大分南 ⇒ 耶馬溪校、佐伯豊南 ○C I O・管理機関の学校訪問・視察 ○C I O・管理機関による新潟県視察
7月	<ul style="list-style-type: none"> ○配信教員と受信側教科担当との協議 ○遠隔授業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・中津南 ⇒ 耶馬溪校、久住高原農業 ・情報科学 ⇒ 耶馬溪校、国東 ・大分南 ⇒ 耶馬溪校、佐伯豊南 ○C I O・管理機関の学校訪問・視察
8月	<ul style="list-style-type: none"> ○配信教員と受信側教科担当との協議 ○新規校への機器整備（国東・三重総合）
9月	<ul style="list-style-type: none"> ○配信教員と受信側教科担当との協議 ○遠隔授業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・中津南 ⇒ 耶馬溪校、久住高原農業 ・情報科学 ⇒ 耶馬溪校、国東 ・大分南 ⇒ 耶馬溪校、佐伯豊南 ○C I O・管理機関の学校訪問・視察 ○新規校への機器整備・調整（国東・三重総合）
10月	<ul style="list-style-type: none"> ○配信教員と受信側教科担当との協議 ○遠隔授業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・中津南 ⇒ 耶馬溪校、久住高原農業 ・情報科学 ⇒ 耶馬溪校、国東 ・大分南 ⇒ 耶馬溪校、佐伯豊南

	<ul style="list-style-type: none"> ・国東 ⇒ 三重総合（試行） ○C I O・管理機関の学校訪問・視察 ○C I O・管理機関による北海道・高知県視察
1 1 月	<ul style="list-style-type: none"> ○配信教員と受信側教科担当との協議 ○遠隔授業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・中津南 ⇒ 耶馬溪校、久住高原農業 ・情報科学 ⇒ 耶馬溪校、国東 ・大分南 ⇒ 耶馬溪校、佐伯豊南 ・国東 ⇒ 三重総合（試行）
1 2 月	<ul style="list-style-type: none"> ○配信教員と受信側教科担当との協議 ○遠隔授業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・中津南 ⇒ 耶馬溪校、久住高原農業 ・情報科学 ⇒ 耶馬溪校、国東 ・大分南 ⇒ 耶馬溪校、佐伯豊南 ・国東 ⇒ 三重総合（試行）
令和 6 年 1 月	<ul style="list-style-type: none"> ○配信教員と受信側教科担当との協議 ○遠隔授業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・中津南 ⇒ 耶馬溪校、久住高原農業 ・情報科学 ⇒ 耶馬溪校、国東 ・大分南 ⇒ 耶馬溪校、佐伯豊南 ・国東 ⇒ 三重総合（試行）
2 月	<ul style="list-style-type: none"> ○配信教員と受信側教科担当との協議 ○遠隔授業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・中津南 ⇒ 耶馬溪校、久住高原農業 ・情報科学 ⇒ 耶馬溪校、国東 ・大分南 ⇒ 耶馬溪校、佐伯豊南 ・国東 ⇒ 三重総合（試行）

2.2. 実施体制

遠隔授業を取り組み体制として、本事業関係校に加え、管理機関として、高校教育課、教育人事課、教育デジタル改革室の体制を整えた。

また遠隔授業をスムーズに行うためのミーティングを、①管理機関と各高校の管理職、授業担当者、②管理機関と各高校の授業担当者 ③管理機関と配信校・受信校の授業担当者の3グループに分け、学校訪問でのヒアリングをもとに、開催グループを分けて行い、各高校の課題に合わせたものとなるように取り組んだ。

【管理機関の役割】

高校教育課（主管課）

- ・高校改革推進班……総務、全体構想、連携校との連絡調整、目標管理
- ・高校教育指導班……普通科高校の教育課程検討・検証、遠隔授業科目選定
- ・産業教育指導班……専門高校の教育課程検討・検証、遠隔授業科目選定
- ・管理予算班……I C T機器発注、予算管理、教室内機器配置

教育人事課

- ・県立学校人事班……遠隔授業担当教員の兼務発令など人事的措置 等
- 教育デジタル改革室……I C T機器使用に係る指導・助言 等

2.3. 取組概要

本事業3年目については、4月当初から遠隔授業を開始することができ、対面授業の位置づけについても、受信校の受講生徒の状況などによって、柔軟に対応できように、管理機関内で調整を図ることができた。また本県においては、初年度の計画段階から実証検証を行う教科・学年を固定して行うこととしたので、授業方法や対面授業のタイミングなどの改善につなげることができたこともあり、受講生徒にとって、通常の対面授業と変わらない感覚で受けることができる環境になった。

2.3.1. 遠隔授業実施表

配信拠点	受信校	教科名	科目	開設学年	配信校生徒の有無	遠隔授業実施理由	受信側の配置体制	遠隔授業実施回数/全授業回数
中津南	耶馬溪校	数学	数学A	2	無	習熟度	教員 ICT 教育サポーター	52/58
中津南	耶馬溪校	外国語	論理表現 I	2	無	習熟度	教員 ICT 教育サポーター	52/58
中津南	久住高原農業	数学	数学A	2	無	習熟度	学習支援員 ICT 教育サポーター	56/60
中津南	久住高原農業	外国語	論理表現 I	2	無	習熟度	学習支援員 ICT 教育サポーター	56/60
大分南	耶馬溪校	福祉	こころとからだの理解	3	無	専門性	教員 ICT 教育サポーター	24/58
大分南	佐伯豊南	福祉	生活支援技術	3	無	専門性	教員 ICT 教育サポーター	16/55
国東	三重総合	農業	測量	2	無	専門性	教員	9/48 (試行)
情報科学	耶馬溪校	商業	情報処理	2	無	専門性	教員 ICT 教育サポーター	48/53
情報科学	国東	商業	プログラミング	2	無	専門性	教員	50/58

2.4. 取組内容

【遠隔授業】

○「教科・科目充実型」の遠隔授業などICTも活用した連携・協働の取組

①遠隔授業を行う運営体制

本県では、本事業を実施するにあたり、1授業あたり配信校1校と受信校1校の形をとることとし、配信校1校に対し、受信校1校の形で、数学・英語の習熟度別授業配信型、SPH指定校（福祉科）のスキル向上につながる授業を福祉科及び福祉コースに配信する専門科目特化型、情報系科目を配信する産業連携事業配信型の3グループに分け研究を進めることとした。令和3年度は、大型モニターをはじめとする機器整備を進めてきたが、遠隔授業に関わる学校の機材整備などの環境整備に時間を要し、試行授業を実施した。令和4年度からは、本格実施を3グループでスタートし、受信校側に専門の教員を配置することにより、実技科目の授業を取り入れることに可能性があると判断し、令和5年度から、測量を実施することとした。

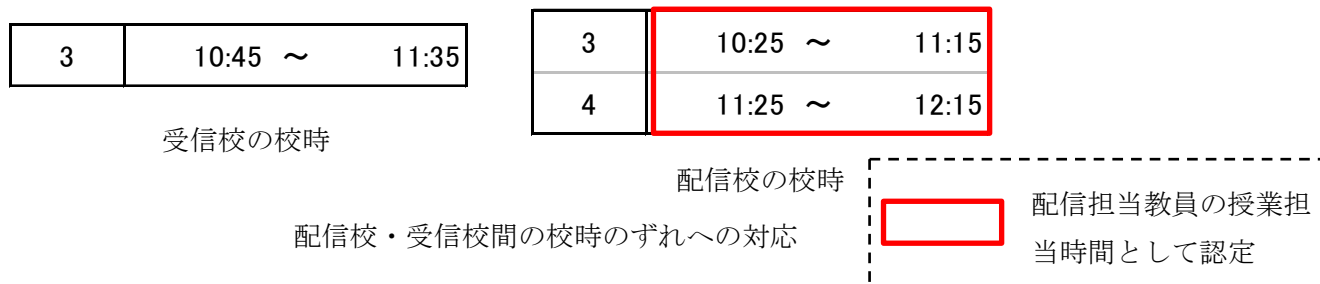
配信科目が多岐にわたっているが、配信担当教員による意見交換の機会をオンラインで開催することで、授業でのICT機器の効果的な活用方法や、生徒の授業での活動についての見取り方法など、情報交換・共有を図ることで、授業改善に取り組む体制を構築することができた。

②教育課程の共通化

本県では、配信校と受信校において、授業開始時刻に差があり、配信担当教員の自校での授業時間との関係を考慮し、受信校側の授業時間に合わせることで、遠隔授業を実施することとした。

【検討内容】

- ・受信校側の校時を変更することは、受信校が中山間地域に所在することもあり、登下校手段である公共交通手段の関係で難しい。また、全校生徒の校時を変更することが難しい。



【成果】

- ・配信校・受信校の校時のずれへの対応方法をとることにより、授業前と授業後に受信校側の立会者と生徒の状況を含めた情報交換を毎時間行うことが可能となった。

③遠隔授業に必要な I C T 環境

遠隔授業を実施するにあたり、生徒にとって、より対面授業に近い形を目指すとともに、配信担当教員にとって簡易的な操作により、授業配信ができる環境構築に努めた。

受信校側には、授業者を投影する、スライド等の教材提示する大型モニターと、リアルタイム授業支援アプリ「MetaMojiClassRoom」を活用し、授業を受けている。

このリアルタイム授業支援アプリ「MetaMojiClassRoom」を使用することで、生徒の課題への取組状況などを確認・採点をはじめ、生徒の学習支援を行うことができる。

機器種別	製品	台数
遠隔会議システム	ZOOM ROOMS	
遠隔システム用PC	ノートパソコン (ASUS ZenBook Duo 14) i P a d	配信校
カメラ・マイク スピーカー	Neat Bar +Neat Pad Neat Bar Pro+Neat Pad	配信校 受信校
大型提示装置	大型モニター (BRAVIA FW-75BZ30J/BZ) 大型モニター (BRAVIA FW-85BZ40H/BZ)	配信校 受信校
遠隔授業で使用する ソフトウェア	MetaMoji ClassRoom※リアルタイム授業支援アプリ	生徒一人一台タブレット
生徒用端末	i P a d	県立高校の生徒に一人一台 (令和3年4月)



配信校の機器構成



受信校の機器構成

④授業づくり・生徒の見取り・評価

【授業づくり】

本事業において、本県が行った数学・英語の習熟度別授業配信型、情報系科目を配信する産業連携事業配信型においては、通常のスクール形式を中心に、グループワークを取り入れ、対面授業と同じ形で実施することとした。

また、SPH指定校（福祉科）のスキル向上につながる授業を福祉科及び福祉コースに配信する専門科目特化型についても、対面授業と同じ形を目指し行う中で、実技の配信方法に課題が見つかり、改善に努めた。

(福祉系の課題)

- ・介助の方法を実践的に配信する際、所作などの細かい部分については、カメラワークはもとより、受講生徒が取り組んでいるかなどを確認することが難しい。
- ・介助方法の一つである階段昇降について、授業者が実際に行う際に、撮影者がカメラワークを気にすることが多くあり、転倒などの危険性があるなど、受講生徒のみならず、安全性に欠ける。

この課題をうけ、福祉系については、実習の報告や課題点を共有する生徒間交流を取り入れ、生徒同士で、課題解決に向けた意見交換ができる形を取り入れることとした。

また、本年度から試行に取り組んでいる「測量」については、安全性を担保できる実技については、事前に映像を撮影・編集をした自作の映像を活用した授業展開を検討しており、来年度に向けて準備を進めている。



【生徒の見取り・評価】

生徒の活動状況をもとめる手段として、リアルタイム授業支援アプリ「MetaMojiClassRoom」により、生徒の取組状況を確認でき、各生徒の習得状況を確認できた。また、毎日課題を取り入れる科目もあり、課題提出状況や取組状況などにより、定期考査に加え、評価を行った。また、生徒が毎日課題をクラウド上に提出する際に、即材に対応ができる授業に対する要望などを書き込んでくれることもあり、授業改善にもつながった。



【対面授業のタイミング】

習熟度別授業配信型については、グループワークを多く取り入れることで、教科への興味・関心は高まってきたが、配信担当教員から生徒とのコミュニケーションが取れているか不安があるという意見を受け、1学期は月に1回程度、2学期以降は学期に2回程度行うこととした。

このように早い段階で対面授業を取り入れることで、受講生徒は「担当してくれる先生が、自分たちに

時間を割いて会いに来てくれた」と喜ぶとともに、授業へ積極的に参加してくれるようになったと配信担当教員から意見が上がった。

専門科目特化型や産業連携事業配信型については、生徒の活動に実技とともに、グループワークを取り入れたことで、自己肯定感が高まり、積極的に発問をする環境が構築することができたので、単元などのタイミングを考慮し、学期末や学年末に対面授業を実施することとした。



【受信校側の立ち会う者の役割】

本事業において、各高校の配信担当教員によるオンライン会議において、立ち会う者の役割として、教科の専門性の高い教員がつくことは望ましいが、特に以下の点について、担当してくれることが挙げられた。

- 授業中の安全管理ができる者
- 生徒の困りなどを、生徒の立場を理解して、お知らせいただける者
例) 遠隔授業中に、他の生徒に気づかれたくない生徒については、授業後に共有する
- 機器不良における対応ができる者

2.5. 考察

【成果】

- ・遠隔会議システムや生徒一人一台端末の活用により、遠隔での単位認定を伴う授業が可能であること。
- ・専門性の高い教員の授業を受けることに対して、生徒の満足感が高いこと。
- ・遠隔授業を行うためのICT環境については、生徒は対面授業との違いを感じていないこと。
- ・「教科・科目充実型」による遠隔授業を実施する中で、配信校生徒を交えた生徒間交流を授業に取り入れることで、多様な考え方に触れることで、社会性や協調性を養い互いに切磋琢磨できる環境になること。

【課題】

- ・生徒とのコミュニケーションを図るために、対面授業を取り入れるタイミングについて、引き続き研究していく必要がある。
- ・学校間連携方式では、配信校・受信校間の校時のずれによる対応を現行の方法で行うと、遠隔授業の拡大が難しいため、配信センター方式を導入し、ハイブリットで行うことが望ましい。
- ・対面授業の実施のための移動など、配信担当教員の負担が大きいため、引き続き研究していく必要がある。

2.5.1. 目標設定シートに対応した成果と課題

1. 本構想において、実現する成果目標の設定（アウトカム）

(1) 学びの基礎診断等により把握する生徒の学力の定着・向上の状況

	2年度（実績）	3年度	4年度	5年度
目標値		C3以上60%	C3以上70%	B層5名以上
実績値	平均値D2	C3以上30.1%	C3以上37.5%	B層以上4名
把握のための測定方法及び指標	<ul style="list-style-type: none"> ・受信校5校：進路マップ「基礎力診断テスト」 年2回受験 ・受験後の検討会で学力向上の検証（受信校複数の場合は合同検討会） ・R3～R4はC層の増加（底上げ）、R5は上位層の増加を図るもの 			

(2) 地域課題の解決等の探究的な学びに関する科目等の数（総合的な探究の時間を含む。）

	2年度（実績）	3年度	4年度	5年度
目標値		7	9	11
実績値	5	5	5	5

（参考）上記のうち、学校設定科目の数

	2年度（実績）	3年度	4年度	5年度
目標値		3	4	4
実績値	1	1	1	1

(3) 免許外教科担任制度の活用件数

	2年度（実績）	3年度	4年度	5年度
目標値		4	5	5
実績値	0	0	2	2
構成校の数	R4：7校、R5：8校			

(4) その他、管理機関が設定した成果目標

成果目標①：受信校生徒の4年制大学への進学者数

	2年度（実績）	3年度	4年度	5年度
目標値		6	8	10
実績値	4	4	29	10
目標設定の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲向上と学力向上の効果として大学進学者の増加を測るもの ・R3試行、R4遠隔授業（多くが2年生対象）の成果を見据え設定 ・受信校5校（該当学科・コース）の合計数とする。 			

成果目標②：授業を受けることで自分の学力が向上していると思う生徒（割合）

	2年度（実績）	3年度	4年度	5年度
目標値		73.0%	76.5%	80.0%
実績値	69.6%	85.9%	90.2%	87.5%
目標設定の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・よりきめ細かい授業の提供による学力向上の自己評価を測るもの ・高校教育課が毎年実施する学習習慣実態調査を活用（受信校平均）高2対象（国東ビジネスITコースのみ1年、佐伯豊南は福祉科） 			

2. COREハイスクール・ネットワークとしての活動指標（アウトプット）

(1) COREネットワークの構成校における遠隔授業の実施科目数

	2年度	3年度	4年度	5年度
実績	0	0	8	9
見込み		7	8	9

(3) その他、管理機関が設定した活動指標

活動指標①：遠隔授業の取組についてメディア等を通じて情報発信した回数

	2年度（実績）	3年度	4年度	5年度
実績	0	0	0	16
見込み		8	13	13
活動指標 の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の魅力発信や、他校への普及の取組を促進するために設定 ・R3年以降、連携校7校に加え管理機関からも情報を発信 			

3. コンソーシアム構築による教育の高度化・多様化に関する取組

3.1. 調査計画

本県では、各学校において、生徒の実態や、地域や学校の強みを活かすことを通じて、魅力ある学校の実現を目指すため、県予算事業「地域との協働による高校魅力化推進事業」に取り組んできた。

月	実施内容
令和5年 4月	○コンソーシアム校内WG会議（中心メンバーによる実務会議） ○地域との協働による高校魅力化推進事業
5月	○コンソーシアム校内WG会議（中心メンバーによる実務会議） ○地域との協働による高校魅力化推進事業
6月	○第1回コンソーシアム連絡会 ・学校の目指す生徒像の共有化、学校の活動計画の提示 ・地域探究学習の計画等 ○地域との協働による高校魅力化推進事業
7月	○連携校間打合せ（耶馬溪、国東、久住高原農業） ・PTリーダー・班チーフ顔合わせ、年間スケジュール確認 ○地域との協働による高校魅力化推進事業
8月	○地域との協働による高校魅力化推進事業
9月	○コンソーシアムWG会議（中心メンバーによる実務会議） ○連携校間打合せ（PTリーダー、班チーフ） ○地域との協働による高校魅力化推進事業
10月	○第2回コンソーシアム連絡会 ・地域探究学習の進捗と検証・改善 ○地域との協働による高校魅力化推進事業
11月	○連携校オンライン発表会打合せ（PTリーダー、班チーフ） ○地域との協働による高校魅力化推進事業
12月	○地域との協働による高校魅力化推進事業
令和6年 1月	○コンソーシアム校内WG会議（中心メンバーによる実務会議） ○地域との協働による高校魅力化推進事業
2月	○コンソーシアム校内WG会議（中心メンバーによる実務会議） ○地域との協働による高校魅力化推進事業
3月	○地域との協働による高校魅力化推進事業

3.2. 実施体制

各校コンソーシアム等の体制については以下のとおりである。

中津南高校耶馬溪校	久住高原農業高校	国東高校	佐伯豊南高校	三重総合高校
樋田小学校	竹田市教育委員会	国東市教育委員会	別府大学	首藤工務店
耶馬溪校 PTA	九州大学農学部附属農場	国東市教育委員会 学校教育課	学校評議委員	NPO 法人 しげまさ 子ども食堂
耶馬溪中学校	竹田市 総務課	国東市政策企画課	ジョブカフェおおい た佐伯サテライト	有限会社たたみの神 志那商事
城井小学校	竹田市役所久住支所	東部振興局 地域創成部	学校評議委員	
中津市教育委員会 学校教育課	豊肥振興局 農山村振興部	国東市商工会青年部	鶴岡地区協育ネット ワーク会議	豊後大野市 P T A 連 合会 事務局
中津市耶馬溪支所 地域振興課	株式会社ピースカン パニー	国東高校 PTA	大分県南部事業部 アスパラガス生産部	株式会社オーエス豊 後大野ファーム
中津市しもげ商工会 事務局	竹田中学校	姫島中学校	佐伯市教育委員会 学校教育課	株式会社 M U R A I S H I
中津市しもげ商工会 青年部	都野小学校	富来小学校	佐伯市 観光ブランド推進 部観光課	大分県豊肥振興局 生産流通部営農推 進班
社会福祉法人もみじ 会	久住高原農業高校同 窓会	国東高校同窓会	佐伯豊南高校 PTA	大分県豊肥振興局 生産流通部営園芸 第一班
中津南高等学校耶馬 溪校	久住高原農業高校 PTA	学校評議員		三重総合高校 PTA
	地域・農業経営	公営塾		
	竹田市地域おこし協 力隊	国東高校		
	久住高原農業高校			

※コミュニティ・スクール設置校：中津南高校耶馬溪校、久住高原農業高校、国東高校

3.3. 取組概要

本県では、県予算事業「地域との協働による高校魅力化推進事業」において、県立高等学校と地域（市町村、小中学校等）が連携し、生徒の学力向上や学校の特色化を図る取組を行うことで、生徒の進路実現を図るとともに、地域に信頼され、中学生に選ばれる魅力ある学校づくりを推進するプロジェクト（地域の課題探究、地域の活力創出、地域の学び連携）を支援した。

学校名	取組内容
中津南高校耶馬溪校	<ul style="list-style-type: none"> ○Youtube チャンネル番組（やばちゃん NEWS）や地域お仕事体験等の番組制作・発信 ○地域・行政・NPO などと連携したホテルの住む自然環境の考察、小学校と連携した合同ホテル授業 ○高齢者サロンの企画・運営・広報活動
久住高原農業高校	<ul style="list-style-type: none"> ○地域農業の課題と解決策を学ぶ取組（農業大学校、農業系大学キャンパス訪問）、先進農家でのアグリ研修等 ○郷土芸能継承不足を解決するプロジェクト実施、和牛甲子園参加へ向けた取組、中高連携のスポーツ活性化 ○地域と連携した農業を通じての取組 （地域の中学生や保護者に「My 農場」を発表、「竹田市食育事業」）
国東高校	<ul style="list-style-type: none"> ○宇宙 STEAM 探究の実施、宇宙港にちなんだ料理の考案、地元飲食店への提案 ○地域医療機関でのジョブシャドウイング、ドローン測量や3DCADの学習 ○七島蘭生産者と連携した七島蘭栽培、製品製作を通じた伝統工芸の継承
佐伯豊南高校	<ul style="list-style-type: none"> ○4学科合同学習成果発表会で実践的探究活動による地域創生の提案 ○地域産品開発に向けた企画・新商品の開発 ○小中学校でのロボット教室やドローン教室、地域創生に係る講演や学校間交流
三重総合高校	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の活性化や問題解決に向けた探究活動・課題研究、三科合同学習成果発表会、地場企業見学会・説明会 ○各部活動による地域還元活動の実施 ○地域農産物を利用した「味噌」の生産・出前授業などの食育活動

3.3.1. 地域と協働した取組実績

学校名	取組概要
中津南高校耶馬溪校	<p>A 『地域の課題探究』プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の活性化に関する課題発見学習 ・SDGs 関連学習 ・進路探究・社会探究学習 ・生徒による情報発信 <p>B 『地域の活力創出』プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の魅力発信・お仕事体験活動 ・地域の環境保全・啓発活動・ホテル授業 ・地域交流、ボランティア活動 ・福祉・フード人材育成活動
久住高原農業高校	<p>A 『地域の課題探究』プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域農業に積極的に関わるために、地域農業の課題と解決策を『学ぶ。』

	<p>B『地域の活力創出』プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継承者不足に悩む郷土芸能へ参加することによる伝統文化継承の活動、軟式野球部・陸上部の地域中学生との交流活動を通して、地域の活力を『見つける。』 <p>C『地域の学び連携』プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校設定科目「チャレンジMy農場」による地域と連携した探究活動により、専門的な知識・技術を『磨く。』
国東高校	<p>A『地域の課題探究』プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の実態や状況を把握し、地域発展のための課題解決策を考える <p>B『地域の活力創出』プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国東市の文化・遺産の魅力を理解し広く発信 ・国東市の観光の発展のために民芸品の開発や伝統文化の伝承 <p>C『地域の学び連携』プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の小・中学生への出前授業
佐伯豊南高校	<p>A『地域の課題探究』プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動の情報発信 ・課題解決型学習による地元の魅力開拓 <p>B『地域の活力創出』プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の小・中学生への出前授業 <p>C『地域の学び連携』プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域学習を通じたグローバルな人材育成
三重総合高校	<p>A『地域の課題探究』プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な探究の時間」を活用した「豊後大野市課題解決・魅力発見」 ・「課題研究」で、地域の活性化や地域の問題解決 <p>B『地域の活力創出』プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化・体育活動を通じた、芸術活動や伝統芸能の意義と継承 <p>C『地域の学び連携』プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な食料生産とその安全・安心な消費に配慮した食育活動 ・環境に配慮した持続可能な花としてフラワーアレンジメントやドライフラワーの装飾

3.3.2. 取組内容

学校名	取組概要
中津南高校耶馬溪校	<p>A『地域の課題探究』プロジェクト</p> <ol style="list-style-type: none"> ①地域の職業人に学ぶ ②地域の活性化に関する課題発見学習 ③進路探究「先輩と語る会」 <p>B『地域の活力創出』プロジェクト</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ホテル授業 ②高齢者サロン「だいだいクラブ」 ③地域美化活動（災害復旧ボランティア） ④地域ボランティア活動 ⑤郷土料理講習会

	⑥洋菓子講習会 ⑦やばけい アンファン・マルシェ ⑧もみじ園スポーツ交流会
久住高原農業高校	A『地域の課題探究』プロジェクト ①農業大学校、大学へのキャンパス訪問 ②国内先進農家研修 ③先進的な農業研修 B『地域の活力創出』プロジェクト ①郷土芸能継承プロジェクト（獅子舞継承） ②「和牛甲子園日本一」プロジェクト ③「軟式野球部・陸上部で中高連携」プロジェクト C『地域の学び連携』プロジェクト ①フラワーアレンジ技術の体験プログラム開発と指導力の向上支援 ②地域の中学生とその保護者に「My農場」を発表 ③地域の特色ある農業・文化を研修（竹田久住高原学）
国東高校	A『地域の課題探究』プロジェクト ①宇宙STEAM探究 ②地域の魅力発見 B『地域の活力創出』プロジェクト ①学校説明用広報チラシの作成・配布 ②七島蘭工芸品の開発 ③くにさき創生プロジェクト ④郷土料理開発 ⑤びっくり農業体験教室 C『地域の学び連携』プロジェクト ①地元小中学校への出前授業 ②リージョナルメディカリストセミナー ③最新土木建築現場見学ツアー
佐伯豊南高校	A『地域の課題探究』プロジェクト ①Zoom Japan、地元企業、行政関係者の協力によりアイデアソンの実施 ②開発商品試食販売の実施 B『地域の活力創出』プロジェクト ①地元小中学校への出前授業 C『地域の学び連携』プロジェクト ①外部講師を招聘した授業（佐伯の魅力とまちおこしに関する講座）を実施 ②佐伯市民大学講演会参加 ③学校、企業研究の実施
三重総合高校	A『地域の課題探究』プロジェクト ①総合的な探究の時間・課題研究による地域の課題発見・解決 B『地域の活力創出』プロジェクト ①地場企業説明会 ②神楽部・演劇部による公演

	C 『地域の学び連携』プロジェクト ①地元小学生との田植え及びイモ植え実習 ②地元中学生へのフラワーアレンジメントやハーブの寄せ植え、味噌づくり体験 ③地元小学生とのイネ刈り、イモ掘り実習
--	---

3.4. 考察

【成果】

- ・地域の幅広い年齢層との協働的・体験的な学習に取り組むことで、生徒の地域への理解や、愛郷心の育成につながってきている。
- ・学校と地域の持続可能な協働体性の構築に向けた組織づくりが浸透してきており、学校が目指す生徒像や学校の姿を地域と共有することができた。(スクール・ポリシーの策定等を含む)

【課題】

- ・各学校では、生徒の実態や、地域や学校の強みを活かすことなどを通じて、魅力ある学校の実現を目指していくが、その際、学校の魅力を校内外に情報発信することについても、さらなる工夫が必要になる。現在、各高校では様々な媒体を使って地域内外への情報発信に取り組んでいるが、学校HPの在り方については、中学生や保護者にとって、情報がより得られやすいようなツールとなるよう、さらなる工夫に取り組んでいく。また、SNSが日常的に普及し、情報を入手する方法として身近な存在となったことにより、これまでの紙媒体やHPでの情報発信に加え、多様な手法による発信の工夫も検討していく必要がある。一方で、中学生や高校生へのアンケートでは、中学生が高校の情報を得る機会として最も期待されるものとして、高校での体験入学が挙げられている。依然として、高校の学びや在校生の様子など実際目にする場の影響が大きいという結果が見られることから、高校においては、中学生や保護者、中学校教員等を対象とする体験的な見学会など、さらなる内容の工夫についても検討を進めていく。

3.4.1. 目標設定シートに対応した成果と課題

2. COREハイスクール・ネットワークとしての活動指標 (アウトプット)

(2) 地元自治体等の関係機関とコンソーシアムを構築している学校数

	2年度 (実績)	3年度	4年度	5年度
実績	0	4	4	5
見込み		4	4	5

(3) その他、管理機関が設定した活動指標

活動指標②：県主催の高校魅力化に係る研修会への地域からの参加者数

	2年度 (実績)	3年度	4年度	5年度
実績	0	0	20	48
見込み		4	17	21
活動指標の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と学校の協働の進捗状況を測るもの ・高校の魅力づくりへの、地域の主体的な参画という観点から設定 			

4. まとめ

【遠隔授業】

少子化が進む中であって、県内どの地域でも質の高い教育を提供できる環境が必要であり、生徒の多様な進路ニーズに対応できるよう、教員配置や施設設備など教育環境の整備に向けた取組も必要である。本県では高等学校においても、タブレットの活用など、ICT機器を効果的に使用した学びの充実が図られている。加えて、本事業により、地域の小規模校や少人数学級と、市部の高校との間で、遠隔による習熟度別授業や専門性の向上に向けた授業が行われた。特に受信校においては、多様な進路希望をもつ生徒への対応として、きめ細かい教科指導が実現されており、少規模化が進みつつある地域の高校において、生徒の学習意欲の向上や、教育の質の確保・向上につながっている。ICT機器を使ったネットワーク環境については、さらに整備を図ることにより、県内どこにいても同じような教育水準が担保された教育サービスの提供につながると考えられる。

【コンソーシアム】

県立高校の魅力ある学校づくりを進める上で、育成を目指す資質・能力を明確化するとともに、高等学校の入口から出口までの教育活動を一貫した体系的なものにすることが大切である。各学校においては、育成を目指す資質・能力に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の「3つの方針」を、特色・魅力ある学校の実現に向けた指針を起点としたカリキュラム・マネジメントを適切に行い、教育課程や個々の授業、入学者選抜の在り方等についても組織的かつ計画的に実施するとともに、PDCAサイクルを通じて継続的な改善を図ることが重要であると考え、その推進に取り組んでいく必要がある。

5. 次年度に向けた計画概要

本県高等学校の目指す方向性を、下記に示す。

- ・すべての学校・学科を通じた共通の理念として、生徒一人一人の自己実現に向け、在籍する生徒や今後入学する生徒の能力・適性等、可能性を最大限に引き出せるよう個別最適な学びを推進していく。
- ・県内広域から集まる生徒が同じ教室で学び合う状況にある環境を、積極的な学びの場と捉え、互いが認め合う多様性（ダイバーシティ）を実現させる教育を推進していく。
- ・普通科、専門学科、総合学科のどの学科に所属しても、生徒が学科の特性を深く理解した上で、各学科の学びの中で、挑戦する意欲を持ち、自己実現に向かって力を発揮できる教育を進めていく。
- ・すべての高校で、学力向上につながる授業改善が着実に進んでいるという状況を踏まえ、今後も、教員の授業力向上やスキルアップにつながる取組を進めるとともに、生徒が県内どの地域の学校で学んでも教育の質の担保が図られるよう、遠隔授業のシステム構築を含め、教育DXの推進*7を図っていく。
- ・新しい時代に求められる学びとして、県立高校では大学や研究機関、自治体や企業、NPO等といった学校外の関係機関との連携により、STEAM教育や課題発見・解決型の学習に取り組んでおり、今後も外部との連携を図りつつ、社会とのつながりの中で先端的な学びの実践に取り組んでいく。
- ・地方創生の観点から、自分が暮らす地域の将来を見据え、高校卒業後に地元に残って活躍することや、将来的に地元に戻って活躍する意志をもつ生徒の育成につながるよう、地域の幅広い異年齢層との協働的・体験的な学習を取り入れ、生徒の地域への理解や、愛郷心の育成につながる教育を推進する。
- ・学校が目指す生徒像や学校の姿を地域と共有し、協力して生徒の育成や学校の魅力づくりを進めていくためにも、コミュニティ・スクールやコンソーシアム等、学校と地域の持続可能な協働体制の構築に向けた組織づくりを推進する。

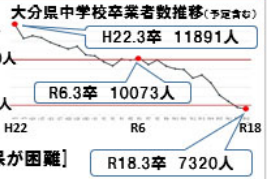
この方向性を推進していくためにも、遠隔授業の研究はもとより、地域との連携をさらに推進していく。

參考資料

遠隔配信を活用した次世代型教育システム構築事業

課題・背景

- ・人口減少に伴い児童・生徒数が減少、結果として1学校当たりの教員配置数も減少
- ・教員配置数が減少すれば、開講できる科目数や習熟に応じた授業数が減少し教育の質の担保が課題



今後の全国的な見直し



あるべき姿

どの地域においても、生徒自らの可能性を最大限に伸ばし
多様で質の高い高校教育を提供できる環境を整備

【方向性】
遠隔教育システムの環境整備

岸田首相(令和国民会議 2023.7.22)

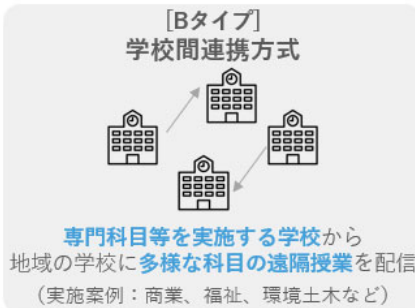
デジタル社会への対応、これを考えていかなければなりません。…遠隔教育ですとか…これらをデジタルの力で乗り越える努力をしよう。

中央教育審議会 高等学校在り方ワーキンググループ(2023.7.21) ※一部要約

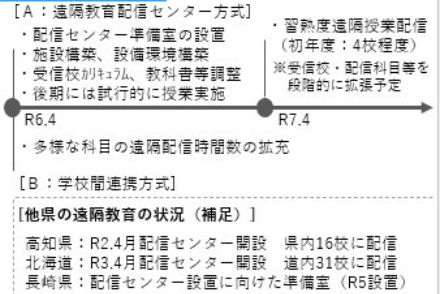
高校は地方創生の核であり、少子化が進む地域では学校の存続が重要。都道府県が小規模校を残す際、遠隔教育などを活用し、生徒が履修できる教科・科目等の種類を増やし、生徒の多様な興味関心や進路希望に基づく多様な学習ニーズに応える方策を検討すべき。

取組概要

遠隔教育システムの環境整備案



取組工程



地域とともに輝く高校魅力化事業

取組内容

A『地域の課題探究』プロジェクト

【ねらい】地域の課題解決に向けた探究学習を充実させ、生徒の地域課題に取り組む意欲を醸成する。

- 例. 地域のフィールドワークや講演を通して、地域の課題 発見・解決に取り組み、成果発表会にて地域に還元する。
- 例. 地元企業と連携し、地域の特産品を活用した商品開発に向けたアイデアを創出する。

※A『地域の課題探究』B『地域への魅力発信』プロジェクトについては、採択校全校対象。 B『地域の連携強化』は各学校の重点課題・目標により、申請時に選択する。

B『地域との連携強化』プロジェクト

【ねらい】地域行事への積極的な参加や地域の小中学校との連携・交流を通して、地域の活力を創出する。

- 例. ものづくりなど学科の学習成果を活用した地域イベントの企画・運営を通して、地域に貢献する。
- 例. 部活動の発表や指導を通して、地元の小中学生との交流を深める。
- 例. 長期休業や放課後などを利用し地元中学生への学習サポートを通して、地域全体の学力向上に貢献する。

- 指 標 果
- 地域への理解や愛着が深まった生徒数が増加
 - 高校に対する理解が深まった地域中3生保護者の増加
 - 学校の魅力化により欠員数が減少

C『地域への魅力発信』プロジェクト

【ねらい】魅力化に係る取組の情報発信を充実させ、地域の中学生やその保護者からの認知度を上げる。

- 学校の広報活動を業者委託により効果的に行う。情報発信方法は、以下の広報媒体の中から各学校が選択する。
- ・SNS広告の配信
 - ・パンフレット等紙媒体での広報
 - ・学校PR動画の作成、学校HP等での公開
- ※学校案内等の紙媒体での広報ではなく、SNS等を活用した広報活動にすべての採択校が取り組む

- 指 取 組
- 活用した地域人材数
 - 地域で活動した生徒数
 - 学校HP閲覧回数

学びの充実に向けた連携・協力体制

地域人材の活用

- ・学校と地域をつなぐ人材を発掘
→ 商工観光労働部など関係機関と連携
→ キャリア教育における小中高の連携
→ 地域を担う人材づくり



コンソーシアムの活用

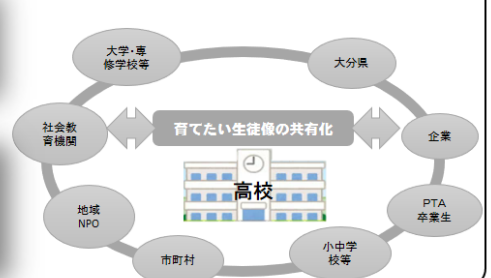
- ・構築したコンソーシアム(共同事業体)において身に付けさせたい力・育てたい生徒像の共有化



地域資源を活用できる環境づくり

- ・高校生が地域を学びのフィールドとし積極的に携わることで、地元の魅力を知り、愛着心を育む

<イメージ図>



対象 大分・別府市以外で、入学者確保の課題に地域と連携して意欲的に取り組む高校

<期間> H28~H30年度

地域の高校活性化支援事業

<期間> H31(R元)~R2年度

地域の高校魅力化・特色化推進事業

<期間> R3~R6年度

地域との協働による高校魅力化推進事業

【成果】

○コンソーシアムを構築し、活用することにより、地元愛はもとより、地域資源を活用した学びを推進することができた。

○高校生による小・中学校への出前授業など、学んできた内容を還元し、他校種との連携を図ることができた。

【課題】

○高校の取組状況などについて情報発信を強化による周知徹底

ヤッホー（耶報）第2号

「小さな学校の大きな挑戦」

中津南高等学校 耶報通信
校長 小池 潤 男
TEL: 0979-54-2011
令和5年5月25日発行

- 【設置学科】
普通科 1 学級
・進学コース
・情報会計コース
・生活福祉コース

コアハイスクールネットワークの紹介（配信授業）

耶馬渓校では、県教委が導入したコアハイスクールネットワークというものを使い、各校の先生からの授業を配信で受け取ることができます。進修、進学・実業・職業・福祉の授業の一部で配信授業が展開されています。5月11日（木）、県教育委員会の教育長や関係者の方々が配信授業の様子を視察に訪れました。今回の配信授業は、2年生（進学コース）のうちの4名を河原校にしました。中津南高校の久木先生が大きな画面を通して、生徒たちに「蘭州」に関する授業を行いました。タブレットも併用しながら、まるで目の前に先生がいるような状況の中で授業は進められ、実際の対面授業と遜色のない収録です。授業の様子を視察した教育委員会の方々も感心していました。いつになく多くの先生方に見守られながらも授業だったため、生徒は少し緊張していましたが、画面越しに久木先生に質問するなど、「蘭州」に関する授業は楽しんでいたようでした。新学期以外の配信授業（3科目）は次の通りです。【蘭語（情報処理）：情報科学高校から配信】
【福祉（こころからの相談）：大分南高校から配信】【英語（動画授業1）：中津南高校から配信】



ホタル授業を実施しました！！

5月18日（木）、今年初めてとなる「ホタル授業」を福井小中学校の4、5年生（9名）に対して、本校2年生（4名）が実施しました。この日は、明治大学から林教授がお見えになり、授業の様子を視察しました。生徒たちは、4月米からホタル授業に向けてポスターの作成や準備に立っての小学生への教え方など、試行錯誤しながら準備してきました。当日は、各自が割り当てられた分科を小中学生の前で堂々と説明し、質問のやり方や準備の仕方なども懇切丁寧に教えていました。児童たちも、ホタルを飼育して見つけながら、興味深そうにその生態について学んでいました。それぞれの学校で、ホタルの捕獲を行い、産卵から孵化、幼虫の飼育を行っているきます。来年度の冬には、育てた幼虫を川に戻し、産卵した場所へ、再び、サナギから成虫になるように支援していきます。ホタルの生育には、**清らかな水や良好な自然環境**が必要不可欠です。この学習を通して、生徒・児童たちが環境保全の大切さを学び、**地域（耶馬渓）の自然を守っていく人材になることを願っています。**
今回の「ホタル授業」は6月22日の予定です。（林教授も参加予定です）



2,3年生からメッセージ

出身中学校に向けた現状報告

<p>3年 水上 竜希 さん（城北中学校出身）</p> <p>私は耶馬渓校に入学して、自分自身のコミュニケーションスキルが中学時代と比べてかなり向上したと感じています。今は情報などの資格取得に向けて毎日勉強しています。耶馬渓校ではいろいろな資格が取得できるので、後輩の皆さん、是非、入学してください。</p>	<p>3年 穴井 風門 さん（三光中学校出身）</p> <p>僕は中学の時から成績が伸びず、勉強もあまりしていませんでした。耶馬渓校はこじんまりしているため、日々の授業で分からなところは友達や先生に気軽に尋ねることができ、先生も親身になって教えてくれるので、とても分かりやすいです。また、生徒一人一人が主役となって輝ける学校です。</p>
<p>3年 小畑 高子 さん（本耶馬渓中学校出身）</p> <p>私は、この学校に入学してから、人前ですべし機会が多くなり、その部分が成長したなあと感じています。現在は、情報資格の取得のため検定に向けての学習に取り組んでいます。耶馬渓校は、生徒みんなが学年に関係なく親しみやすい、安心して過ごすことのできるとても良い学校です。</p>	<p>3年 櫻本 新誠 さん（中津中学校出身）</p> <p>私が入学した、耶馬渓校は全校の生徒数が少ない分一人ひとりに授業などで発表する機会が多いことです。私は生徒会にも所属しており、生徒会の行事等で全校の前に出て発表することも多くあり、中学校の時に比べるると、緊張することもなく人前で話すことが出来るようになりました。</p>
<p>2年 前田 颯哉 さん（西富中学校出身）</p> <p>西富中学校の皆さん、こんにちは。私は耶馬渓校に入学して、精神面でもかなり成長したと思っています。今は、逆コースで頑張っていますが、先生方の手厚いサポートのおかげで苦戦することなく行っています。後輩の皆さんもココで優しい先生方と自分の進路を考えた方が勉強してみませんか。</p>	<p>2年 楠木 優希 さん（耶馬渓中学校出身）</p> <p>耶馬渓校に入学してよかったです。これは、勉強でわからない所があれば、先生がわかりやすく教えてくれることです。そのおかげでテストができようになり、人にも敬えられるようになりました。また、先生と親しみやすい所も耶馬渓校の魅力だと思います。皆さんの入学を待っています。</p>
<p>2年 吉瀬 始希 さん（勝ヶ丘中学校出身）</p> <p>私は今、「大勢の人の前でも、自分に自信を持つ」という目標があり、スピーチをする機会があれば積極的に立候補しています。耶馬渓校は少人数で、良くも悪くも目立ちますが、目標に向かって頑張ることのできる学校です。「そんな耶馬渓校を選択して良かった」と、私は実感しているところです。</p>	<p>2年 菊田 美穂 さん（盛陽中学校出身）</p> <p>盛陽中学校のみなさん、こんにちは！今の私は、資格取得に向けて日々の授業や家庭での自主学習などに取り組んでいます。資格を持つことで絶対に損はないので、中学生のうちから資格取得を目指して頑張ってみてはどうですか？自分の人生が楽しくなるように頑張ってください。</p>
<p>2年 葉田 颯明 さん（東中津中学校出身）</p> <p>皆さんこんにちは。耶馬渓校は通学が大変ですが、自然豊かな場所にあります。耶馬渓校に入学して、自分のできるが増えました。他の高校に比べて少人数ですが、良いところたくさんあり、少しずつ自分のペースで目標の達成に向けて頑張ることがのできるで、充実した日々を過ごしています。</p>	

ヤッホー (耶報) 第3号

「小さな学校の大きな挑戦」

中津南高等学校 耶報編輯
校長 小池 祐男
TEL: 0979-54-2011
令和5年6月26日発行

- 【設置学科】
普通科 1学級
進学コース
情報会計コース
生活福祉コース

令和5年度 生徒会役員選挙を実施しました！

6月2日(金)、今年度の生徒会役員選挙を開催しました。耶報部は1年に1回だけ、生徒会役員選挙を行い、生徒会執行部を選出します。5月1日に役員を募り、その後、立候補した生徒の立会演説会を開催し、立候補した生徒とともに応援者も演説を行い、各自が学校をよりよくするための公約を発表しました。その後、選挙管理委員会の生徒たちの管理のもと公正な投票が行われました。投票には、中津南選挙管理委員会からお借りした「投票箱」と「型紙」が使われ、本物さながらの形で行われました。受付で投票用紙を受け、各々が型紙で記入し、投票箱に入れていくという形です。今回は、すべての役員で兼任の可否を問うものでしたが、立候補者7名全員が兼任されました。(画面に新生徒会役員の名前と意気込みを掲載) 新生徒会役員の皆さん、今後は学校のリーダーとして各課原簿の企画・運営をお願いします。生徒の皆さんも、新役員を盛り上げていてください！



「だいたいクラブ」の活動の様子

6月14日(水)、今年度2回目となる「だいたいクラブ」の活動を生活福祉コースの3年生7名が行いました。今年度は、活動の場所を「まーちゃん家」に移し、地域の方々と様々なゲームを行いながら若い生徒たちと年配の方々で交流を深めています。今回の活動では、**赤サッカー**と**いろいろピンゴ**を行いました。生徒も2回目となり、前回のような緊張もなく、目上の方々とも会話のキャッチボールをしながら、皆で楽しくレクリエーションを行いました。利用者の方々も笑顔に生徒に声をかけ、コミュニケーションを深んでいます。次回の活動は7月12日の予定です。利用者の皆さん、次回も楽しみにしておいてください。

「だいたいクラブ」とは、耶馬溪校の生活福祉コースの生徒たちと地域の方々「まーちゃん家」に集まり、レクリエーションやゲームを行うサロンとのこと。サロンの「だいたいクラブ」は、何代も続く「代々」が由来となっており、世代間のつながりを大事にした、いとの思いが込められて命名されました。



生徒会役員からメッセージ

生徒会活動への意気込み

会長 菅野 裕人さん (2年) (耶馬中学校出身)

私は1年間副会長として学校をより楽しく学べる場にしていきたいと考えています。そのために学年や全校の集まりを増やしレクリエーションなどとして楽しむ時間を作りたいと思っています。私が望む1年後の耶馬溪校の理想の姿は、メリハリがしっかりと効いて、みんなが無理せず自然に通っている姿です。この1年間、しっかりと頑張っていきたいと思いますので、どうぞよろしくをお願いします。

副会長 耶馬 遥香さん (2年) (耶馬中学校出身)

生徒会副会長として頑張っていきたいことは、生徒会長のサポート役に徹しながら、生徒会メンバー全体をまとめていくことです。生徒会役員がしっかりとやりとまで活動し、耶馬溪校を楽しく安心して過ごせる学校にしていければと考えています。また、来年度以降入学してくる新入生(今は中学生)のためにも、きれいで過ごしやすい学校を維持していこうと思っています。

副会長 楠木 悠祐さん (2年) (耶馬中学校出身)

私が生徒会副会長として1年間頑張りたいことは、生徒会系のサポートはもちろんですが、学校の様子を観察しながら、改善の必要性があるところを見つけていくことです。学校の雰囲気や地域の方々からも褒められるような学校にしたいと考えています。そのために礼儀を大切に、特に「一止一礼」を全校で取り組み、0笑顔と挨拶があふれる学校づくりができればと考えています。よろしくをお願いします。

幹事 宮崎 凛さん (2年) (緒ヶ丘中学校出身)

私は、昨年に引き続き、生徒会総務として生徒の皆さんが毎日笑顔で楽しく過ごせるよう色々な事に取り組みたいと思っています。学年の枠を超えて生徒それぞれが仲良く、そして楽しく行事に取り組みるような企画をしていこうと考えています。生徒会行事を通して、誰もが「耶馬溪校に入って良かった」と思えるよう一杯、頑張っていきたいと思いますので、ご協力をお願いします。

幹事 稲田 潤希さん (2年) (耶馬中学校出身)

私は、今の自分を責めようと思いません。これからは生徒会役員として全校生徒と関わりを増やし、生徒皆さんの要望を聞き、その声を反映させることで、皆が通いやすい学校づくりにつなげていきたいと考えています。私は中学校時代、学校が嫌でしたが、耶馬溪校に通うようになり、今はとても楽しく過ごせています。私の様に学校嫌いだっただけの人が、少しでも学校を好きになれるよう生徒会活動を頑張っていきたいと思います。

幹事 岡崎 一花さん (1年) (三光中学校出身)

私が生徒会総務になって取り組みたいことは、色々な学校行事で全校生徒の皆さんを笑顔にしていくことです。生徒全員が必ずしも、毎日、自ら学校に進んでいきたいと思わないわけではないと思います。全校生徒全員が進んで「学校に行きたい」と思えるような学校にしていきたいと感じています。楽しく明るい学校づくりに取り組もうと考えています。この1年間、生徒会総務としてしっかりと頑張っていきたいです。

幹事 藤山 颯哉さん (1年) (三光中学校出身)

私が生徒会総務として取り組みたいことは、生徒みんなが笑顔になるような学校づくりです。学校というと、毎日行かなくてはならないという「義務的」なものを感じてしまい、足が重くなる人も多いと思います。そんな人たちが少しでも減るように様々な行事を楽しいものとし、毎日、学校に行きたいと思えるようにしたいと考えています。具体的なことはこれからですが、皆さんのために頑張ろうと思います！

ヤッホー (耶報) 第4号

「小さな学校の大きな挑戦」

中津南高等学校 耶報部
校長 小池 博 男
TEL: 0979-54-2011
令和5年7月28日発行

- 【 設置学科 】
- 普通科 1 学級
 - 進学コース
 - 情報会計コース
 - 生活福祉コース

クラスマッチを実施しました！

7月14日(金)、新学期最初のクラスマッチを実施しました。今回の競技種目は、バレーボールとバドミントンの体育館種目でしたので、雨の心配がありませんでした。ただし、体育館内は朝晩、むしが多く集中されましたが、時間によつても体育館を考慮しながら、ゲームを進めていきました。体調を崩す生徒も少なく、競技を楽しんでいました。耶報部のクラスマッチは、男女がミックスされたチームで試合を行うところに特色があり、昔、とても仲の良いのが特徴です。3年生はいつも運りの元気さでゲームを盛り上げ、2年生は声援を飛ばしていました。1年生はバレーボールでは区別に勝つ、高校がアタックやバックアップなど、各所で活躍を見せてくれました。1年生は昔がバレーを熱心にあい、互いのミスもカバーしてパスを懸命につないでいました。バドミントンでは、それぞれの学年がペアを組んだ日チームが3つのパートに分かれ、練習したり試合を行いました。決勝リーグに3チームがコマを進めました。最終的に優勝したのは、1年生チームでした。生徒の皆さん、お疲れ様でした！

【 所属 】 バレーボール部：3年Aチーム バドミントン部：1年 高吉・星野内ペア



朝 利菜さん (3年) (耶報部 中学校出身)
初戦でとても強い2年生チームと当たり、自然に試合になりました。ボールを上に上げることに専念し、何とかがつていきました。最終的に全勝優勝でき、良い思い出になりました。

新聞 志蓮さん (2年) (耶報部 中学校出身)
バレーでは、チームの皆と協力して頑張ることができました。3年Aチームに負けて惜しくも2位だったけど、次回は優勝できるように頑張りたいです！

増矢 ナナさん (3年) (中津南 中学校出身)
バドミントンでの参加でしたが、全学年の人たちと試合を通して親睦を深めることができました。試合の合間に、書役話すことのない人たちと話すことができ、とても良い時間を持てました。

時崎 大翔さん (2年) (耶報部 中学校出身)
自分はまだ運動は得意ではないのですが、チームのメンターのサポートのおかげで点を取ることができました。バレーボールをとても楽しむことができました。

平八重 日菜乃さん (1年) (耶報部 中学校出身)
高校生活になって初めてのクラスマッチ、最初は緊張するのですが、すこく楽しかったです。チームのみんなとは、協力しあい励ましあひながら頑張ることができ、友達との仲が深まりました。

放課後ボランティア活動の様子 (災害復旧清掃ボランティア)

7月10日の山田川の氾濫は、耶報部各所に被害の爪痕(つめあと)を残す中、耶報部活動型にも夏や冬など多くの被害を残してしまいました。例年であれば、地域の各所で清掃活動を行うところですが、今回は被害の出たところを中心に、生体による清掃ボランティアを実施しました。初日となる7月13日は、約40名の生徒が4か所に分かれ、建木等の除去作業に汗を流しました。被災地からスクールバスの乗り場までの通学路周辺や学校近くの喫茶店(ピッコロさん)、耶報部があるアクアパークや栗石園の清掃です。一人では絶対に動かせないような大きな建木も皆で力を合わせて撤去していきましました。スクールバスの出発が速くなり、夕方のアレビニュース(TOB, NHK)や平日の朝刊(大分合同新聞)でも紹介されました。

また、7月18日の2日目のボランティアでは、週末にお祭りを迎えている被災八幡社の清掃に取り組みました。前回の活動に加えて2回目をボランティアでは、週末にお祭りを迎えている被災八幡社の清掃を取り組むことができました。機会があれば、生徒会を中心に今後もボランティア活動に取り組みたいと考えています。

TOBニュースの映像 (YouTube にアップされています)
<https://www.youtube.com/watch?v=f0h602MY3P8&t=16s>



平塚 心也 さん (3年) (耶報部 中学校出身)
被災地からスクールバス乗降場所までの間の流木撤去を中心に作業をしました。このような活動を通して地域に関わることができて良かったです。

後川 貴道 さん (3年) (三光 中学校出身)
少しの作業でしたが、栗石園の清掃を行いました。草取りやゴミ拾いなど限られた時間の中で精一杯頑張りました。2学期のガードバイ清掃など、地域にこれからも貢献していきたいです。

久保 千歳 さん (2年) (耶々丘 中学校出身)
アクアパークの流木片付けと被災八幡社の清掃活動に参加してもらいましたが、生徒みんなで力を合わせて作業は、とてもほかほかと感じました。少しでもお役に立てたのならうれしいです。

高橋 龍花 さん (1年) (東中津 中学校出身)
流木片付けやゴミ拾いは大変でしたが、被災した耶報部の町が段々キレイになっていくのを見て、自分の気持ちも明るくなりました。地域の皆さんの役に立てて、本当に良かったと感じました。

東 健貴 さん (3年) (耶報部 中学校出身)
いつも通っている道でも隅々を見ると家外ゴミが多いと感じました。今回は自分からゴミ拾いなどの清掃を行い地域に貢献したいと思いました。

中村 威 さん (2年) (耶報部 中学校出身)
毎日、水上スキーの練習で使っている場所が流木などで使えなくなってきたけど、皆が協力してくれたおかげで、かなり片付きました。これからもボランティア活動で、耶報部をキレイにしていきたいです。

岡崎 一希 さん (1年) (三光 中学校出身)
私は被災八幡社の清掃活動に参加しました。境内周辺の道路に散乱した枯葉やゴミを片付け、段々キレイになっていくのを見て嬉しくなりました。地域の方々が喜んでくれるといいなと思います。

ヤッポー（耶報）第5号

「小さな学校の大きな挑戦」

中津南高等学校耶馬溪校
校長 小池 楠男
TEL: 0979-64-2011
令和5年9月28日発行

- 【設置学科】
- 普通科 1学級
- 進学コース
- 情報会計コース
- 生活福祉コース

耶馬溪地域美化活動（地域ボランティア）を実施

9月13日（水）、例年例行事となっている耶馬溪地域美化活動（地域ボランティア）を全校生徒及び職員で行いました。本来であれば、地元的地図林と一斉に行うところですが、今年は10月12日と中国時差の2日目に当たっているため、本校のみで先行して実施することになりました。この日は午後の時間を貸って、横井町から平田峠下のメイプル翠鳥サイクリングロードの区画（約1.2km）のガードパイプを、ナイロンたわしを稼いでいきました。給水車は耶馬溪支所からも出してもらい、準備しながら生地のもとに周囲しながら運んでもらいました。暑の音に響かれたガードパイプでしたが、タワシでこすりながら水で洗い流すことでみるみるきれいになっていきます。7月の大雨災害の跡が各所で見られましたが、今回の美化活動でかなりキレイになりました。生徒たちも、作業後のサイクリングロードの景観に感激していました。これから耶馬溪は紅葉の季節を迎えることになりました。今回の活動を通して、地域のお役に立てたことが生徒たちの誇りとなりました。来年は、地図林の方々と一緒に、この活動が行えることを願っています。



美化活動に参加した生徒の感想

香 利美さん（3年）（耶馬溪中学校出身）	得れのごびり付いたガードパイプを磨くのはとても大変でしたが、敵々と作業にも慣れ、上手くできるようになりました。作業後は達成感に満たされました。
百鳥 麗さん（2年）（耶馬溪中学校出身）	耶馬溪校の一員として、ガードパイプを磨きました。とてもやりがいがあり、最初にはとても綺麗に仕上げることができ、うれしい気持ちになりました。
藤村内 夏華さん（1年）（耶馬溪中学校出身）	初めてガードパイプ磨きを行いました。普段、運らないサイクリングロードでのボランティアは大変でしたが、とてもやりがいを感じることができました。
藤岡 優里さん（3年）（本耶馬溪中学校出身）	普段、掃除をされていない場所だったので、一生懸命磨きました。キレイに磨いたガードパイプを見て、自分もとても清々しい気持ちになりました。
植松 悟也さん（2年）（吉富中学校出身）	いつもお世話になっている耶馬溪地域への感謝として清掃活動に取り組みました。キレイになっていく所を見ていると、自分も気持ちよくなりました。
井原 海輝さん（1年）（耶馬溪中学校出身）	ガードパイプに付いていた汚れは、タワシですること意外にみるみる落ちていったので、すごく楽しく作業することができました。ありがたうございました。

「だいたいクラブ」に2年生5名がデビューしました！

9月13日（水）、「だいたいクラブ」の活動で生活福祉コースの2年生5名がデビューしました。この時期、3年生は就職や進学に向けた活動が目に見えているため、代わって2年生が行うことになっています。この日に向け、生徒たちは運行台本などを作り、入念な準備をしました。今回、用意したゲームは「サイコロ自己紹介」と「敬語講座、何が名かわかるかな？報告セッション」です。サイコロ自己紹介では、大きなサイコロを振り、「特技」や「好きな食べ物」など出た目のお題に答えて自己紹介を行っています。このように、なには、エッセイと題するような回答もあり、皆が楽しく打ち合わせすることができました。場も和んだところで、敬語講座クイズを行いました。クイズは、47都道府県にまつわる有名な人や食べ物、施設などを題材にし、カードの組み合わせを作っています。（例 長崎県 ⇨ カステラ、大分県 ⇨ 温泉 など）自分が行ったことがある場所で盛り上がり、少し難しい問題には皆をかしげながらも答えを尋ね、皆で楽しく取り回ししてもらいました。

今回の活動を通して、2年生も自信をつけたようです。皆さん、次回ももっと楽しみ方においてください。



だいたいクラブの感想

藤岡 颯弥さん（2年）（耶馬溪中学校出身）	初めてのだいたいクラブで、すごく緊張しましたが、利用者の方々がとても優しくしてくれたので、楽しくできました。初めては緊張しましたが、慣れてきました。
藤岡 遥香さん（2年）（耶馬溪中学校出身）	初めてでも緊張しましたが、地域の方々がとても優しく、とても楽しかったです。自分も頑張りました。次回ももっと上手くしようと思います。
久米 千菜さん（2年）（耶馬溪中学校出身）	レクは何をやろう？自己紹介はどうしよう？と悩みました。とても緊張しましたが、皆さんの優しさのおかげで、悪い話かスムーズに行うことができました。
江島 真十さん（3年）（耶馬溪中学校出身）	作った3品のうち、いなり寿司の「揚げ」が壊れないようにしながら具までしっかり詰めていく所が少し難しかったです。家でも作ってみたいと思います。
穴井 麗平さん（3年）（三光中学校出身）	講師の方々がとてもフレンドリーで、教えてくれる際も優しく丁寧だったので、分りやすく楽しくできました。「また、一緒に作りたい」と思いました。
藤岡 優里さん（3年）（本耶馬溪中学校出身）	今回作った「魚ぐいし」は、自分が初めて食べるもので少し汁の多い量でした。講師の方がとても優しく教えてくれたので、楽しく作ることができました。

郷土料理講習会を行いました！

9月22日（金）、3年 生活福祉コースの生徒を対象に郷土料理講習会を実施しました。この日は、JAおおいの中津女性部耶馬溪支部から3名の方を講師としてお招きし、耶馬溪地域の伝統料理の調理方法について教えていただきました。この日は、「学もち」・【耶馬溪風長くい】・【三角いなり寿司】の3品を学んでいただきました。まずは、さいの目に切ったサツマイモに小麦粉と砂糖を入れて子どりの振りこぶし程度の大きさに丸めたものを蒸して作ります。蒸ぐいは湯のみつくりたものです。三角いなり寿司は、三角に切った大きめの揚げに人参やシイタケなどの具材を入った卵液を詰めたものになります。生徒たちは、手分りながら、講師の方々の手本を見て上手に調理することができました。完成した品を皿に盛りつけたら、皆で美味しくいただきました。普段の授業の時間よりも楽しく食事することができました。

なお、この日の様子は中津ケーブルテレビで9月30日から1週間放映される予定です。



ヤッホー(耶)報 第6号

「小さな学校の大きな挑戦」

体育大会を実施しました！

9月20日(金)、暑さ少し和らいだ秋晴れの中、体育大会を実施しました。50名の生徒が赤団・青団に分かれ、100m走や綱引き、五人ねなどで闘い合いました。(校長先生やPTA会長さんなども、人脈の足りない団体競技に飛び入りで参加し、生徒と一緒に楽しく汗を流しました。)大団とびでは学年ごとに赤青に分かれ、9チームが激戦で競い合いました。チームで声を合わせて懸命に闘う姿が印象的でした。団体抗リレーでは、選抜された12名の走者で闘い合いました。最後の締めくくりは、各学年が揃って走るダンスです。3年生が、他の学年の地の中心に入って盛り上げてくれたおかげでとても楽しいものとなり、アンコールまで沸き起こる思い出に満ちるものとなりました。副校長兼教務長の団体抗リレーまで見つめましたが、赤団が見事に勝利、速勝を展し喜びました。生徒の皆さん、お疲れ様でした。また、応援に駆けつけて下さった来賓の方々、保護者の皆様、ありがとうございました。

総合成績：赤団 (465点) 青団 (415点)

- ◆ 五人ね (3年生)：青団 133個 - 赤団 93個
- ◆ 綱引き (全女子)：赤団 2勝0敗
- ◆ 大綱綱び (各学年)：青団 計163回 - 赤団 計129回

- ◆ 台風の目 (1,2年生)：赤団
- ◆ 団体抗リレー (選抜)：赤団
- ◆ 綱引き (全男子)：赤団 2勝1敗

1位 (1年青団) 98回 2位 (3年赤団) 46回 3位 (1年赤団) 44回



穴井 麗門さん (3年) (三光中学校出身)
 高校生活最後の体育大会は最高の思い出になりました。フォアダンスでは、全校が楽しくダンスすることができました。優勝に選ばれましたが、青団全員の協力のもと、やり遂げることができました。

前田 琉珠さん (2年) (西富中学校出身)
 今年の体育大会は、学年を問わず生徒一人ひとりが努力し、時には助け合い、時には競い合う、そんな素晴らしいものだったと胸を張って言えるものになりました。来年も、こんな体育大会にしたいです。

平置 心丸さん (3年) (東中津中学校出身)
 高校最後の体育大会を優勝で締めくくることができ、最高の思い出になりました。団体抗リレーでは皆のおかげで1位を取ることができ、赤団アンカとしての責任も果たせたので良かったです。

三好 龍斗さん (1年) (中津中学校出身)
 体育大会では、綱引きが思い出に残っています。練習では一度も勝つことができなかったのですが、本番では赤団全員が協力して勝負に挑み勝つことができました。今までも一番の喜びを体験してきました。

洋菓子講習会を実施しました！

10月4日(水) 2年生の生活福祉コースの生徒を対象に洋菓子講習会を実施しました。この日は大分県で洋菓子店を営む「パティスリーサンテ子子」の焼夫さんを講師としてお招きし、シュークリームの作り方について教えていただきました。シュー生地作り、オーブンの焼き方・カスタードクリーム作り、仕上げの仕上げについて一つ一つ丁寧に教えていただきました。生徒たちは、焼き場からシュー生地をトレーに新聞紙に敷き出し、その後、190℃に熱したオーブンに入れシューが膨らんでくれるのを待ちます。その間に、卵黄でカスタードクリームを作っていました。生地もクリームを膨らめるときの穴を開けて、クリームで出来栄が関わってきます。焼けたシューは冷ましたのち、クーキーンを使ったポツポツのある2層型を作りました。初めてにしては長くできたと思います。生徒たちは、お菓子作りでこれほど体力を使うとは思っていませんでした。ケータンさんの大層な声で指導することができました。焼夫先生、お疲れ様でした。



中学生体験入学会の様子

10月7日(土) 中学3年生を対象に体験入学会を開催しました。今年度は昨年より10名ほど参加者が増え、生徒・保護者等合わせて80名ほどの方々にお越しいただきました。体育館で校長先生と歓迎のあいさつの後、全体説明や各コースの2年生が説明を行い、1年生が授業見学のための校舎案内をしました。その後、3つのグループに分かれて授業を体験してもらいました。今回、体験してもらった科目は、国語(海学コース)・パソコン実習(情報会計コース)・介護実習(生活福祉コース)です。引率で来られた先生方は、体育館での発表や質問をする本校生後(成長した卒業生の姿)を見て感心していました。体験入学に参加して下さった中学生の皆さん、本校生後(成長した卒業生の姿)を見て感心、那珂南高校に入学してくれたいことを願っています。受験勉強、頑張ってください！



体験入学会に参加してくれた3年生や保護者・引率の先生の声(抜粋)

【生徒】これまであまり那珂南高校には関心がなかったけど、今回の体験入学で興味を持つことができた。
 【生徒】人数が少ないため、それぞれが主体的に行事などに取り組んでいて、とてもよいと思いました。また、地域と密接に連携しているように感じました。
 【生徒】少人数だから学年に異質なく協力しているところが印象に残った。
 【生徒】授業の時に、先生方に教えてもらったことも分りやすかったです。授業が楽しかったです。
 【生徒】那珂南高校について詳しく説明してくれた分りやすかったです。体験授業でも楽しく受けたいと思いました。
 【保護者】先生方の丁寧なサポート、学校の雰囲気などよかったです。スクールバスがあるのもいい。
 【保護者】学校の説明がとても分りやすいというならいいと思います。
 【引率者】少人数の学校ならではの良さを実感しました。生徒自身が自分の学費を判断することで中学生も具体的に選べるかなと思います。
 【引率者】3年生がとてもしっかりと説明を受けてくれて中学生も楽しんでました。

ヤッポー（耶報）第7号

「小さな学校の大きな挑戦」

中津南高等学校耶馬渓校
校長 小池 博男
TEL: 0979-64-2011
令和5年11月27日発行

- 【設置学科】
普通科 1学級
・進学コース
・情報会計コース
・生活福祉コース

紅葉祭（文化祭）を実施しました！

11月10日（金）、紅葉祭（文化祭）を実施しました。新型コロナウイルス感染症が8月に移行して初めてとなる文化祭で、久しぶりに多くの関係者や来賓の方々も観覧する形で行われました。今年度のテーマは「+Plus~思いを繋げる五+祭~」ということで、五重奏の夏の中文字を「+（プラス）」の形に置き換えて、全校生徒50人の想いを重ね合わせて音楽の五重奏曲のようなメロディを奏でたいという思いを込めてみました。

会場となる体育館の壁面には、生徒それぞれ思いを書いた音符を五重奏に貼って生徒会が音階と歌詞を作ってオーブニングで披露しました。その後のステージでは、日ごろの生徒の学習風景の情景として「耶馬渓学」の水たれに関する研究発表のプレゼンテーションが始まり、普通選択生徒によるパフォーミング、音楽選択生徒の合唱などを披露しました。1年生はミュージックビデオの映像とクラス全員でのダンスパフォーマンスを行いました。2年生は、映像作品とステージでの発表を合わせ、キャストに校長先生をサプライズとして加え、音楽発表を上手く取り入れました。3年生も最初に映像作品を披露した後、クラス全員での合唱を行うという形で行われ、見せてくれました。それ以外にも体育館の壁面には副委員長や保健委員会のポスター展示による発表、生活福祉コースの生徒たちのクッキーなどの手作り販売と多岐にわたるものとなりました。

閉会式でのメイキング映像上映後は、これまでの準備の記録とともに当日の様子なども含めた形で振り返りを行い、生徒の誓いで、互いの頑張りをたたえ合いました。今年度は、2年生と3年生の作品が同等で観賞券となりました。来年はもっと盛り上げることを期待しています。生徒の皆さん、お疲れ様でした。また、観覧して下さった来賓の方々、関係者の皆様、ありがとうございました。



魚料理講習会を実施しました！

11月17日（金）3年生の生活福祉コースの生徒を対象に魚料理講習会を実施しました。この日は大分県道中津支店女性部から寺本さんと奥さんを講師としてお招きし、魚やエビの調理の仕方について教えていただきました。使ったメイン食材は、コチ・鯛・エビです。コチは、トゲに注意しながら背びれや腹びれを切り取り、上手に取っ払い、ウロコも丁寧に取って下処理をしました。生徒たちは講師の指導しながら、何となくコチの処理を行うことができました。また、エビは殻をむいたのち、背ワタを竹串で丁寧に取り除き、ネギやニンニクなどの香味野菜をみじん切りにしてエビチリ作りにも挑戦しました。魚を美味しくながらも手は止めずに皆で調理しました。魚通、佃めしやコチのアラの魚を使ったおいしいものも作りましたが、なんとか時間内に作り終え、最後はみんなで美味しくいただくことができました。



今回の献立【コチのカルパッチョ】【鯛のサツマイモチャウダー】【エビチリ】【佃めし】【コチのお浸し】

全日本水上市スキー選手権大会で総合優勝しました！

11月11日～11月16日の日程で、千葉県津市郡で開催された第90回 経営杯 全日本水上市スキー選手権大会に本校2年生の中村 成さんが出場しました。この大会は水上市スキーの今年1年を締めくくる大会で、中学生や大人など幅広い年齢層の選手が出場する大会です。3つの種目【スラローム、トリック、ジャンプ】で水上市スキーの腕を競い合います。中村さんは、強豪の大人や大学生も出場するオーブンクラスで、優勝を果たしました。特に、トリックでは19年ぶりに日本記録を更新する快挙を成し遂げました。来年は、ホームにしているアクアパーク（耶馬渓ダム）で全日本選手権が開催予定です。優勝をかけた大会となります。中村さん、全盛期を築いたことを目指してこれからも頑張ってください。



今大会の記録【総合優勝】<スラローム：第2位、トリック：優勝（日本新記録）、ジャンプ：優勝>

今大会に参加した感想や次回への意気込み及び今後の展望
中村 成さん（2年）（耶馬渓中学校出身）
今回、全日本水上市スキー選手権が初開催の千葉納津津市郡ダムにおいて「初優勝」できてとても嬉しいです。これまで色々な事がありましたが、私を支えてくれた方々、家族、仲間、そして毎日の練習ができていた学校と耶馬渓の環境に最高の恩返しのできたのではないかと思います。次の目標は、来年の夏に開かれるU-17水上市スキー世界選手権大会のジャンプ競技で優勝することです。そのためには、これからの冬の寒い時期でも寒さに負けず、毎日の学校後の練習とトレーニングを欠かさずしていききたいと考えています。将来の目標は、水上市スキーで世界一を取り、日本の水上市スキーを盛り上げていくことです。これからも、何かを見かけたら応援よろしくお願いします。

※写真の一部は、日本水上市スキー&ウエイクボード連盟 Facebook に掲載のものを使用させてもらっています

ヤッホー（耶報）第8号

「小さな学校の大きな挑戦」

中津南高等学校取組風速校
校長 小池 楠 男
TEL: 0979-54-2011
令和5年12月20日発行

- 【設置学科】
普通科 1学級
・通学コース
・情報会計コース
・生活福祉コース

PTA主催「生徒激励会」がありました！

12月1日(金)、PTA主催の生徒激励会が実施されました。激励会の内容は、保護者の方々がカレーライスを作って生徒たちにふるまうというものです。当初はグラウンドでバーベキュー(焼肉)を行う予定でしたが、天候や生徒の体調面を考慮して、室内でも食べることができるカレーライスになりました。当日は、PTA役員の方を中心に11名の保護者が調理室に集まり、カレーの仕込みを行いました。尚ほ適量な大きさにカットした後、玉ねぎやニンジン、ジャガイモなどの野菜とともに大きな鍋で炒めています。ある程度火が通ったところで水を入れ煮込んでいきます。保護者の方々は慣れた手つきで調理しながらも、皆で会話を楽しみ情報交換を行うことができました。最後にカレーを入れて、固し味にすりおろしリンゴと焼き肉のたれを入れてとろ火で煮込みめば完成です。調理室からはカレーのいい匂いが漂い、食欲を刺激される状態となりました。からあげ屋さんの骨なし唐揚げも準備し、調理室からカレーのいい匂いが漂い、食欲を刺激されました。各学年の教員をPTA会長と校長先生が訪問し、生徒に向けて激励の言葉をかけ、代表生徒がお礼の言葉を述べたのち、カレーを振替けりました。1軒目のカレーは黒毛和牛を使ったもので、2軒目からのお振替けは黒豚のカレーに味変するよう、保護者の方々が2種類のカレーを準備してくれました。生徒たちも、遅い昼食に大満足だったようで、最後のカレーをたいらげたツリモノもいました。



生食へのカレー配布が終わった後、保護者の方々が調理室で、自分たちの作ったカレーを食べながら反省会を行いました。今回のカレーの量や食材の準備に関する反省とともに「来年の激励会はバーベキューをやりたいね」など、次回に向けた要望など楽しいものとなりました。保護者の皆様、朝からの準備、ありがとうございました。

防災避難訓練を実施しました

11月30日(水) 期末考査終了後、毎年恒例の防災避難訓練を実施しました。この日は、地震があった後、調理室から出火するという想定で訓練を行いました。また、中津市消防署(那覇県分署)の方々にいっただき、訓練の様子を写真で残させていただきました。

先ず地震の発生とともに地震に対する安全行動を行いました。基本的には建物の入口のドアを開け避難口を確保するとともに、机などの下に入って自分の身を守る姿勢を取ります。地震が収まった後に火災警報のベルが鳴り、出火場所の調理室が取れ火事、速やかにグラウンドに避難しました。生徒たちは安全行動をとりながら、事務室前の玄関からグラウンドに避難することができました。その後、消火器の使い方、避難の要領を取り全員の無事を確認しました。その後、消火器の使い方について説明を受け、水消火器を使って実技を行いました。消火器の使い方のポイントは「ピ・ノ・キ・オ」と覚えていただきました。実技は、各学年の代表生徒と職員(計6名)が行いました。

最後に消防署の方からの講話をいただきましたが、避難の様子や速やかな行動など「全体的に良かった」とお褒めの言葉をいただきました。併せて、煙の動くスピードについて、実演を交えてわかりやすく教えていただきました。煙は、細に広がる場合のスピードは大人が歩く速度の速さであるため、避けて走る必要はなく、早歩きで逃げるのでも十分であるとのことでした。実演に生徒に歩いてもらい、消防士さんの煙の速さで追いつけるというところを行いました。後に避難する際は走らなくても煙に巻かれることはありますが、煙が上にかかるスピードは避難の5倍ほどになるため、煙から逃げることは不可能です。そのため下の階で火事があった場合は火元に近い階段を使うことは避けた方がよいと教えていただきました。

これからは本格的な冬を過ごし、空気の乾燥する季節となります。生徒の皆さん、火の元には十分気を付けるとともに、もし、火事等起きた場合は急がず慌てずに行動しましょう！消防署の皆様ありがとうございました。



泉 朝明さん(3年) (城北中学校出身)

今回の防災訓練は、消防署員の方々がとても優しく親切に対応してくれたので、緊張せずに取り組むことができました。消火器訓練も楽しく取り組むことができました。ありがとうございました。

クラスマッチを実施しました！

12月15日(金)2年期も満了ところ1週間となり、恒例のクラスマッチを実施しました。今年も体育館を会場に、全校生徒50名がバスケケットボールとバドミントンで白熱したゲームを繰り広げました。

バスケケットボールは、いつも団体めに体育館を利用している3年生と運動神経の良い2年生の盛り合いとなりましたが、今年期は2年生に軍配が上がりました。また、バドミントンもシングルス・ダブルスともに2年生が優勝しました。特にダブルスの決勝は、2年生同士との戦いとなりましたがシャトルスピードの速い男子チームが女子を圧倒して勝利をつかみました。今回は、優勝こそでしたが、1年生も3年生も、皆、仲良く楽しんでプレーしていました。生徒の皆さん、お疲れでした。



ヤッホー（耶報）第9号

「小さな学校の大きな挑戦」

中津南高等学校取組委員会
校長 小池 雄 男
TEL: 0979-54-2011
令和6年2月2日発行

- 【設置学科】
- 普通科 1学科
- 進学コース
- 情報会計コース
- 生活福祉コース

そば打ち・販売実習を行いました（総合的な探究の時間）

12月27日（水）2年生が総合的な探究の時間の授業の一環で、専属トピアでそば打ち・販売実習を行いました。この日は、専属トピアでの年次の年越しそば作りイベントに続いてのそば打ち実習でした。この日は、専属トピアの専属スタッフがそば打ちの指導を行いました。10月からそば打ちの練習をしてきました。そば打ちには、地元那須郡でお蕎麦屋さん「手打ちそば 朝」を営む竹本さんに指導を受けながら、総合的な探究の時間を利用して練習に励んで参りました。初めは上手くそば粉がまとまらず苦労しましたが、練習を重ねるにつれて売れ物として出せるほどに上達しました。

当日は天気にも恵まれ、そば打ち日和となりました。朝、8時から店舗の入り口で開運年越しそばの折衝が行われ、神様に奉納されたそば粉を袋で、生徒たちはそばを打ちました。この折衝の中でそば粉を丸くこねた後、伸ばし棒でそばを平たくしていきます。最後にそば切り包丁で等間隔に切って完成です。出来上がったそばは、食堂に預け、お客様が注文したタイミングで麺で茹でてもらい【耶校そば（かけそば）650円】として提供してもらいました。お買い求め下さった方には、手づくりのおしおりをプレゼントしました。

この日は、テレビ局や新聞社の方々が年越しそばの取材で訪れており、学校とは異なる雰囲気の中でそば打ちとなりましたが、満足いくそばが出来上がりました。食べていただいた方にはアンケートを取らせていただきました。アンケートでは、激励の言葉を多くいただきました。また、「麺の太いそばが好きなという」など、忌憚のない意見や感想もあり、とても勉強になりました。今回、ご興味いただきました方々、ありがとうございました。紙面を借りてお礼申し上げます。 生徒の皆さん、朝早くからのそば打ち、お疲れ様でした。



穂波 浩也さん（2年）（菅重中学校出身）

そば打ちを体験して感じたことは、「感覚」を掴むことの重要さです。練習を繰り返すうち、そば粉の感覚がわかるようになり、楽しく感じるようになりまして大変でしたが、お客さんに「おいしかった」と言ってもらい、とても嬉しい体験になりました。

朝岡 遥斗さん（2年）（那須郡中学校出身）

今回、そばの太さや長さに気を遣いながら20食分を準備することは大変でしたが、それ以上に商品として売ることの難しさを感じました。売売するまで大変でしたが、お客さんに「おいしかった」と言ってもらい、とても嬉しい体験になりました。

修学旅行に行ってきました！

1月16日から3泊4日の日程で、2年生が関西方面（京都・奈良・大阪）に修学旅行に行ってきました。

朝、中津駅に集合し列車で新大塚まで移動。その後、貸切バスに乗り換え、宇治平等院を目指しました。宇治平等院では、嵐山渡月橋で嵐山を鑑賞し、その後、嵐山の阿修羅地蔵堂などを見学しました。嵐山に到着した後は、嵐山駅を過ぎる立派なものが多く出てくることになりました。市内には嵐山や嵯峨野の観光バスが10分間隔で運行しています。嵐山駅で下車し、嵐山観光バスに乗りました。市内には嵐山や嵯峨野の観光バスが10分間隔で運行しています。嵐山駅で下車し、嵐山観光バスに乗りました。市内には嵐山や嵯峨野の観光バスが10分間隔で運行しています。



2日目は、嵐山の自主研修です。各々がそれぞれ文化的な体験（お点検体験や嵐山製作見学等）を行いました。その後、京都市内を観光しました。嵐山には、嵐山観光バスに乗りました。市内には嵐山や嵯峨野の観光バスが10分間隔で運行しています。



3日目は、京都の観光を後にし、バスで大塚に移動です。午前中は「ものづくり」に関する研修を東大塚で行いました。体験生徒たちは行いました。MAGI0000（マナココ）という名の工場で、代表取締役の方から「MAGI0000（マナココ）のモーターになった方です。その方からものづくりの面白さなどを聞かしてもらいました。その後の体験では、透明のコップにサンドブラスタで小さな砂を当てて磨き上げ、お土産を付けていくというを行いました。各自が作ったコップは土産として持ち帰ることが出来、よい思い出となりました。



午後には、お楽しみがユニバーサルスタジアムジャパンです。あいにくの小気候でしたが、生徒たちはジェットコースターや各種アトラクションをしっかりと楽しみ、たくさんのお土産を買って帰りました。最終日は0:00に起床し、朝食後、バスで奈良公園を目指しました。嵐の多さにびっくりしながらも、東大塚の大仏殿では、大仏の大きさに圧倒され、柱の穴抜けに多くの生徒が感動しました。公園内で鹿せんべい（10枚200円）を購入し、鹿にエサやり体験を行いました。鹿せんべいを食べてくれる鹿たちには圧倒されながら楽しいひと時を過ごしました。なかには鹿に、鹿を噛まれて引く顔を見せられた生徒もあり、感動が伝わるほどでした。その後、徒歩で西門寺に移動し、宝物館で、平手造右衛門や阿修羅地蔵堂を見学しました。新館の景観は、高貴な景観です。景観は「嵐（しよら）・嵯峨（ひちりき）・龍谷（りゅうき）」の3層でしたが、それぞれの通りの風景を受けながら演劇を聴かせていただきました。最後に到着したのが、30分程度の嵐山公園の静かな風景です。嵐山公園から新幹線に乗り、夕方6時過ぎに中津駅に到着しました。3泊4日の旅行でしたが、歴史体験や運動体験、ものづくりや自主研修と盛りだくさんの内容で有意義なものとなりました。



有楽館の内部の様子